

平成27年度 最上地区青少年育成懇談会 平成27年12月5日 新庄市民プラザ

平成27年度最上地区青少年育成懇談会が、12月5日(土)新庄市民プラザにおいて開催されました。参加者は、高校生41名、大人50名、福島県二本松市からの視察団11名が加わり、総数102名です。今年度のテーマは、「最上をもっと元気に！～若者ができること、大人ができること～part2」です。4つの分科会に分かれ、事前に提出いただいた“50文字提言”を基に、どの分科会も活発な意見交換がなされました。高校生の終了後のアンケートには、「いろんな方々の意見や考えが聞けて、自分の視野が広がった」「今日のこの懇談会で終わりではなく、今後も最上を良くするためにいろいろと考えていきたい」等が寄せられました。また、懇談会全体とグループ懇談については、“とても良い”“まあまあ良い”を合わせるとどちらも100%でした。



分科会での話し合いの様子

大人の方々からは、「高校生の生の声(本音)が聞けて良かった」「高校生がしっかりした考えを持っていて感動した」等の声が聞かれました。

また、『青少年もがみ 22号』(8/1発行)をホームページで見られた福島県二本松市の岳下地区青少年育成推進協議会から当協議会活動の視察依頼がありましたので、今回の懇談会に来ていただきました。視察団は、「進路が決まり、新庄を離れることが決まった今だからこそ思う、と話された女子高校生の姿や、新庄の未来を熱く語っていた男子高校生の姿、そしてそれらに真剣に答えていた大人の方々強く印象に残りました。私たちも、自分たちの町の若い声を聞く機会をぜひ持ちたい」と感想を語り、充実した懇談会に感嘆されていました。



二本松市からの視察団と最青協役員

推進員の宝もの紹介

新庄 「しずく」へ大きな期待

新庄市青少年育成推進員 大山 孝一

久しぶりの高校生ボランティアの誕生に感動しています。昨年あたりからその動きが見られていましたが、その形が少しずつ成長している姿に期待が大きく膨らんでおりました。何かを求めて参加するのではなく、今ある事象に挑戦している姿がとてもすがすがしく、好感が持てます。

現メンバーの「しずく」は、昨年の高萩ジャンボリーでデビューし、本年は2年目になりますが、高萩市の市子連の高校生に近づこうと頑張ってきたと思います。高萩ジャンボリーでは、高萩祭りの「高萩流し踊り正調の部門」で3位になりました。新庄市の高萩祭り参加史上初めて表彰を受けたことから、彼女達の活動の素晴らしさを感じます。県の青少年健全育成大会では実践者として参加し、自分たちの活動を総括しながらの発表は素晴らしかったと思います。

これまでのグループとの違いは、ある特定の分野にこだわらずに、課題を自分たちで見つけ、そのテーマに全力で取り組めることです。彼女達の活躍は青少年の分野、社会貢献の場、そして市民イベントなどへの協力と多岐に亘っております。先輩と後輩の連携も素晴らしく、最近言われております、横の関係だけでなく縦の関係もできております。

「しずく」のメンバーは1年生が多いので、次年度への期待がどうしてもありますが、その期待につぶされることなく、自分たちのスタイルで活躍して欲しいし、活躍できるメンバーが揃っております。今後新1年生を加えた形で、これまでの活動を超越する団体に育てて歴史を重ねて行って欲しい。私達も皆さん方の活動を全面的にバックアップさせていただきます。

最後に皆様方のこれからの活躍をお祈りし、これまでの協力に感謝申し上げます。

金山 「たから」もの

金山町青少年育成推進員 笹原 祐一

晩秋の頃、妻と二人、最上町赤倉スキー場で開催された、「産業まつり鍋合戦」を訪れた。四県の自慢の鍋汁を食べ比べながら、郷土芸能も堪能した。せっかくここまで来たのだからと、赤倉温泉に日帰り入浴して帰ることに。温泉街を散策していると、小学校中学年ぐらいの子が、家族とキャッチボールをしていた。私達を見つけると、ボールを持つ手を休め、「こんにちは」と挨拶をくれた。少し歩くと、今度は同年ぐらいの四人組の男子が「こんにちは」。学区から赤倉小学校の児童だと思う。こんなことは今珍しいことではないのかもしれないが、私にはとても新鮮に思え感激した。

今の時代、都市と地方の区別なく様々な情報が容易に得られる。若者は、大人(私)よりも、その活用に、はるかに詳しいと感じる。反面、特に多感な高校生にとっては、惑わされることに直面することもあるはずだ。新庄・最上地区でも、不審者情報や誘惑も少なからず存在する。自分の成長にプラスになる情報を得て活用して欲しい。「大人の役割」として、「地域の環境」として、青少年が心身ともに元気に成長できるよう見守りたい。

鍋と温泉と子ども達のおかげで三度温まり、晴天の爽やかな一日となった。

編集後記

今年度の事業の一番の目玉は何と云っても4年ぶりに新庄市で開催された『県青少年健全育成県民大会』ではないでしょうか。開催までの準備と当日の大会を通して、改めて最上地域の青少年育成にかけける熱意とチームワークのすばらしさ、そして将来最上を背負っていく若者(高校生)のたくましさを感じました。

青少年もがみ

第23号 平成28年2月1日

発行

最上地区青少年育成連絡協議会

提言 地域と共に「できることから」

最上町青少年育成町民会議会長 尾形 勝雄



青少年を取り巻く環境は、多様化するネット社会の中で日々進化を続けております。全国的に見ますと、特にSNSを使ったイジメは気づきにくく、また、性犯罪など数年前までは考えられないような事件が大きな社会問題になっています。

最上町でも、青少年を取り巻く環境が変わってきているように感じます。現在の少子化に対応した環境づくりから、思いやり・気配り・子育てに配慮した取り組みが必要であると感じています。

地域では、子ども達が以前から集落に伝わる伝統行事に参加していましたが、今は少子化により、存続の危機に直面しているという声も聞こえてきます。地域や関係団体との活動から生まれてくる「結」の心

を、子どもの頃から醸成させて、地域への愛着や感謝の気持ちへと紡いで欲しいと思っております。

当町民会議の活動では、「社会及び自分を良くする作文・標語コンクール」を続けてきております。今年も多数の応募がありました。いじめや非行の無い“一人ひとり”が輝けるための環境づくり活動を始め、あいさつ運動や夜間パトロールなど、地域と共に「できることから」計画して、実践・検証をしてまいりました。

この活動は、即効性のあるものではなく、地道ではあるけれど、「一歩一歩」着実に歩いていくことが大事であります。子ども達の安全・安心な環境を整えていき、そして、地域の活性化につないでいくことが大人の務めであると信じています。

平成27年度 主な事業の報告

※青少年もがみ第22号掲載以降

“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動標語 最上地区優秀作品選考【9月17日(木)最上総合支庁】

最上管内の全小・中学校から、合わせて4,111点の応募がありました。選考の結果、次の作品が最優秀・優秀に選ばれました。

- ◇最優秀 金山町立金山中学校3年 鈴木美里さん 「一人じゃない 私がつくる あなたの居場所」
- ◇優秀 真室川町立あさひ小学校6年 佐藤亜夢さん 「いじめゼロ 笑顔のたすき 未来へと」
- ◇優秀 金山町立金山小学校5年 丹 万央さん 「やんだごど したらゼツタイ だめだんじゅ〜」
- ◇優秀 最上町立向町小学校1年 大場煌正さん 「そのメール 友の顔見て 言えますか」

山形県青少年健全育成県民大会

10月24日(土)13:00~ 新庄市民プラザ
○参加者 青少年育成関係者 337名(内最上110名)
○アトラクション
山形県立新庄神室産業高等学校郷土芸能部の皆さんによる「新庄囃子」

○山形県青少年育成県民会議表彰
最上管内からは、次の11個人2団体が表彰されました。

- ・模範活動青少年団体 瀬見伝統芸能保存会太鼓部会(最上町)
- ・青少年育成功労者 菅 孝・遊佐忠孝(最上町)・伊藤光信(舟形町)・小松 功・横瀬徳雄・姉崎園子・渡邊一枝(真室川町)・水戸一徳・門脇 隆・林 昭(鮭川村)・渡部 伸也(大蔵村)

- ・青少年健全育成県民運動協力団体 金山町女性団体連絡協議会(金山町)
- いじめをなくそう高校生サミット 新庄北高校・新庄南高校・新庄神室産業高校と最上地域のボランティアサークル「ふなっ子」(舟形町)と「しずく」(新庄市)の代表生徒が、「いじめ防止」についての意見交換を行いました。



最上地区青少年育成推進員研修会

10月24日(土) 17:30~ ニューグランドホテル新庄
今年度の青少年育成推進員研修会は、青少年健全育成県民大会への参加を兼ねる形で行われ、各市町村の推進員の方々から多数参加を頂きました。表彰及び情報交換は、ニューグランドホテルで行いました。

- ◇27年度の永年表彰者
・遊佐 忠孝(最上町)
・福本 浩(大蔵村)
・松田 与市(大蔵村)

